



# オリーブ通信

2012年1月号  
2013. 1. 12発行  
第135号



<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu>

## 謹賀新年

皆様お健やかに新しい年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

旧年中はオリーブの活動に多大なお力添えをいただきありがとうございました。

おかげさまで通常の教室活動に加えて、18周年記念パーティと秋の遠足という2大イベントも滞りなく楽しく終えることができました。

世の中は相変わらず不況が続く、不穏な空気を感じることも多いですが、小さくともオリーブという社会の中では、一人ひとりが個性を認め合い、他の個のために自らを生かすということが続けられていると思います。本当に素晴らしいことです。素晴らしい仲間と出会えたこの場所をより良いものにできるよう今年もお力をお貸しください。

皆様の1年が幸多いものでありますように。

本年もよろしく願いいたします。



代表 恩地美和

皆様、明けましておめでとうございます。

ご心配おかけしておりますが、12月25日に冠動脈へ2本目のステントという管を入れてもらい、27日に無事退院しました。現在、療養しているところです。体調は回復しつつあり、仕事には行っていますが、オリーブのほうはもう少しお休みさせていただきます。勝手にしますがよろしくおねがいます。

会長 早川宏之



中川先生の「へんてこ」日本語

30

「細雪、小雪」



先日電車の中で女子高校生数人が楽しそうに話していた。どうやらケーキの話をしているようだが、ケーキといえば「いちご」か「モンブラン」か「チョコレート」程度の知識しかない、「おじさま」の筆者には、まるで外国語（本来外国語）を聞いているようであった。

ところで雪の降る季節になった。日本では雪を生活の中に取り入れ、雪と戦いながらも、雪景色の美しさを愛でることが多い。そのため日本語には雪に関する語彙が他の言語に比して豊富である。細雪、小雪、霰（みぞれ）、ポタン雪、粉雪、そして雪化粧、銀世界……。こうした言葉を聞いただけでも雪模様がまぶたに浮かぶ。雪は日本文化の象徴といっても過言ではないだろう。

あるとき南国出身の留学生が「小雪」の舞っているのを見て、「雪、雪……。」とはしゃいでいたのが思い出される。雪を知らない人にとっては、すべて「雪」としか表現のしようがなく、どんな降り方をしているかは意識にない。

ところが日本語でせいぜい「(ひと)こぶ、ふた(こぶ)ラクダ」としか表現しようなないラクダがエジプトでは何種類もの語彙が存在するという。その文化にとつて大切なものは語彙が豊富になる。

ケーキに縁のない人にとっては、しよせんケーキであっても、ケーキが生活の一部となっている人にとっては、幸か不幸か何種類も区別しなければならない。

外国人に日本語を教える際、ただ「雪」を学習者の言語に置き換える（例えば snow）だけでは不十分で、雪が日本人の生活とどう関わっているかを知り、実際に雪の降るのを眺めながら雪とともに生活してみなければ、「細雪、小雪……」の「雪」を理解するのは難しい。

京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄

## 滋賀の海外からの来た子どもたちの未来のために！

外国人を支援するボランティアは、こんなところにもあった・・・！  
「国際」「外国」等をキーワードに、さまざまなボランティアや活動を訪ね歩いている(!?)  
小林駿さんが、その活動に入り込んでの“体当たりレポート”を届けて下さいました。

こんにちは！ 今回はみなさんに国際ボランティアグループ『日和(ひより)』さんの活動を知っていただきたいと思います。

日和さんでは外国にルーツを持った子どもたちが、『より楽しい生活を日本で過ごす』ために、『日常会話&学校教育のサポート』といった支援活動を行っています。また日々の活動やイベントなどを代表の梁紀新(りょう きしん)君と大学生のメンバーが中心となって活動提案や計画実行しています。『先生、生徒がお互いに学び、成長し合える』という点も日和さんの大きな魅力です。



お互いの活動を始めて知りあったのは、『滋賀県国際交流関係団体連絡会』(2012年11月)のミーティングがきっかけでした。

海外の方との交流を目的とした団体が多い中、日和さんの『子供たちへの日常勉強の支援』を目的としているところがとても魅力的でした。また、大津市の瀬田で毎週活動をしているということもあり、『いつでも気軽に参加できる!』といった雰囲気がとても好印象でした。

現在、僕も毎週土曜日の瀬田公民館での活動に参加させていただいています。

オリーブと日和さんでの活動の違いは『学ぶことを諦めない!』という教訓を伝えることだと感じます。『なぜ勉強するのか?』を子どもたちにすべてを分かってもらうことは簡単ではありません。しかし、自分なりに考え、言葉にして伝えることに、お互いが成長できる大きな希望があると思います。教師でもない僕がこのような体験をできるのはとても貴重なことです。そしてなにより生徒が頑張っていて、できなかった問題を解くことができた瞬間は僕にとっても大きな幸せです。これから土曜日が充実していくことにすごくワクワクしています!



また、教育支援活動のほかにもクリスマスパーティーなどさまざまな楽しいイベントも日和さんでは行っています。またブログや活動も是非チェックしてみてください!

(レポート 小林 駿)

<活動> 毎週土曜日 朝 10 時~12 時 @瀬田公民館

<ブログ> : [http://blog.canpan.info/hiyori\\_o2/](http://blog.canpan.info/hiyori_o2/)

## makiの ガイドこぼればなし

### その21 「写真の時間～パート3」

前回紹介しました、「カッコいいね！この（僕の）写真友達に見せてあげてね」という男の子リオ君のお話の続きです。今回は、その“カッコいい”彼の「実は・・・」という深いお話です。

正直に言いまして、リオ君のようなナルシストにはじめて会いました。「自分はモテる。」「仕事ができる男だ。」と自慢話を嫌味なく連発するのですから。そうして自分を認めてカッコよさをアピールするのは日本人には難しいな...と思いました。

ガイドも終盤にさしかかり、われわれ一行は京都伏見にある稲荷大社に行きました。夕暮れが近づいていて、赤い鳥居はより赤く染まり美しかったです。

リオ君のお母さんと私はベンチに座って一休みをしました。私は彼女に言いました。

「リオ君は家族思いで素敵なご子息ですね。とお一つも自分に自信がある方でうらやましいです。」

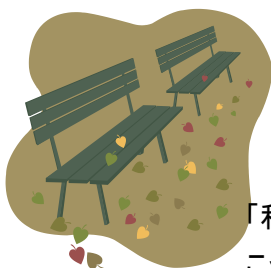
彼女はフフッと笑うと、ゆっくりと話しはじめました。

前にもお話しましたが、この一家はロシア移民です。リオ君は10歳でアメリカに来ました。半ば強引だったそうです。習慣も違い、英語も全くわからず、また学校でロシア人というだけでひどいいじめを受けたそうです。さらに、リオ君と妹のミッシェルちゃんは異父兄弟ということも聞かされました。彼女は、リオ君にはアメリカでの慣れない生活、自分の離婚、異父との生活などで、精神的に大変だったと思うと話されました。でも、最後に「私はすべてにおいてリオを誇りに思っている。家族思いの、人を思う素晴らしい息子なの。」こう言うと彼女はベンチから離れ、家族の集まる場所にもどっていきました。

リオ君を「なんだ？このナルシスト男！」と言っていた自分が急に恥ずかしくなりました。彼なりに、いろいろある中で必死に生きてきたのだと思うと、私は何と小さい人間なのか...と悔いました。私は一人ベンチに残り、楽しそうに写真をチェックしたり、笑ったり、はしゃいだりしている、この家族を見て、なんと微笑ましいのだろうと感じていました。そして素敵な人たちに会ったことに感謝の思いでいっぱいになりました。

さて、リオ君から携帯待受にするように言われた写真ですが、待受にこそしなかったけれどいい思い出としてメモリーに保管しています。リオ君の写真を改めて見たら、やっぱりカッコいい人はカッコいい！と思う私でした(笑)

★Maki Hiraoka★



## 日本語授業発見コラム



担当の先生がお休みで、中級上の生徒を臨時で担当した。本時は「使役表現・させる」の学習。普段からこの生徒とはよく話すので、彼女の日本語会話のレベルは知っていた。日常的に立ち話をする分には全く問題はない。

さて、学習を進めていくと、「この…『もたせる』『きらせる』の元の形（原型）は何ですか？」という質問が来た。彼女には子どももいて、「勉強させる」とか「行かせる」とかいった表現はすでに使っていると思っていた。本人も「たぶん使っている。」と答えていた。

では、なぜ？ それは、「使っているのは、そういう場面ではその言葉を使うんだ、と覚えたから。その言葉は動詞を変化させたものだとは思わなかった。」という答えが返ってきた。彼女はもう十数年日本に在住しているが、最近文法をきっちり習うことで「使っていたけど、初めて（法則を）知ることが多い。」と言う。

意外とそういう外国人は多いかもしれない。

(小春 京子)





## 先月の活動（12月）

日本語教室 12/1 (M), 8, 15 (3回)  
 まちセン運営協議会 全体会 12/13(木) (田中一)  
 BNN 会議 12/15 (土) (納谷)



## 今月の活動予定（1月）

日本語教室 1/12(M), 19, 26 (3回)  
 まちセン運営協議会施設部会 1/17 (木) (田中一)  
 BNN 会議 1/12 (土) (平岡、納谷)

●日本語教室の(M)は定例ミーティング ●( )内は参加者、または 参加予定者。敬称略

## 会員の動き（12月）

尾中大祐（おなかだいすけ）さん （12月1日入会）



“商店街 de 外国語 no おべんきょう会”の平岡講師による英語講座をきっかけに、入会していただきました。

専門は英語ですが、これまでの自分の経験から「日本語」をうまく伝えていければなと思います。  
 みなさんとたくさんお話ししていきたいです！  
 至らないところばかりですが、何卒よろしくお願い致します。

葛城真奈（かつらぎまな）さん （12月22日 再入会）



オリーブ通信でも、外国の日本語教室の様子を度々紹介して下さっていた葛城さんが、このたびスタッフ復帰して下さることになりました。

2年ぶりにオリーブに参加することになりました。  
 日本、ベトナム、インドネシアで教えた経験がありますので、日本語を教えるうえでの失敗談ならたくさんあります！  
 その点でお役にたてるかもしれません・・・。  
 どうぞよろしくお願い致します。

\*退会：大神正寿さん（賛助会員へ）

## おしらせ（オリーブ協賛事業です）

第36回

「人権尊重と部落解放をめざす草津市民のつどい」

日時:2月11日(祝)13:30~16:00

場所:しが県民芸術創造館

第9回 BNN外国人による日本語スピーチ大会

日時:2月10日(日)12:40~16:30

場所:栗東市さくら芸術会館

オリーブから2名応募されていますが、ただいま審査結果待ちです。



## 編集後記

クリスマス、大晦日、お正月・・・と過ぎてしまえば、あの賑やかさがウソのように日常が戻ってくる。時間と周りだけが日常に戻り、“動かたくないモード”の気持ちと重い身体はエンジンからずそのまま。。毎年私が感じる「1月」である。

さて、オリーブも新年を始動しました。今年19周年であります。

1年経つと、生徒も先生も顔ぶれがすっかり変わってしまうここ数年であります。できれば、来年もまたみなさまとお会いしたいと思っております。蛇のようにほそ〜くなが〜く!?

本年もどうぞよろしくお願い致します。

こはる きょうこ

